

港区立赤坂小学校
令和4年度 授業改善推進プラン

1 本校における課題

国語	どの学年においても「書くこと」が課題となっている。「言語の特徴や言葉のきまりに関すること」についても十分でないことが課題につながっている面もある。また、書くことを決めること自体に難しさが見られる。低学年は経験したことや想像したこと、中学年は関心のあることから、高学年は考えたことなどから自分が書きたいことを決める過程を大事にしていく必要がある。他教科、他場面でも普段のノート作りをベースとし、活用できる力を付けていきたい。また、読書活動を推進し、様々な文章に親しむ機会を増やしていく。
社会	学習内容について、知識の定着が十分でない部分が見られる。その理由として、学年間や単元間の学習内容を系統立てて理解できていないことが考えられる。技能面では、写真や図、表などの資料の読み取りにおいて、複数ある資料の中から、知りたいことや調べる目的に応じて適切な資料を選ぶことが難しいという課題がある。資料の種類に応じて、どのような特徴を読み取ることができるのかを理解し、資料の特性に留意した読み取り方を習慣付ける必要がある。3年生では地図や地図記号といった資料に十分親しめていないため、どの学年でも資料に触れたり、活用したりする機会を増やしたい。また、学習したことを自己の生活やこれからの生き方に生かしていく態度を身に付ける必要がある。
算数	単元テストや東京ベーシックドリルから分析すると、どの学年においても計算や作図などの基礎はできているが、応用問題に課題がある。基礎基本を論理的に説明したり、思考力を要する問題により多く取り組んだりする必要がある。また既習事項を基にして、見通しをもち、筋道を立てて考えて適用問題を解く力が課題である。自ら課題を発見し、課題や目的、内容を明確にさせ、多様な考えからよりよい考えや解決方法を求めさせていきたい。
理科	都の学力向上調査では、「理科の内容がよく分かる」と答えた児童は、どの学年も半数以上を占めており、授業内容に関する理解度は高いと思われる。また、観察や実験等の学習には意欲的に取り組むが、その方法や結果を基に考察していくことに課題がある。学習内容について、日常生活や既習事項と結び付けて指導することで、学習意欲を向上させるとともに、意見交流や話し合いなどの言語活動を活発に行うことで、より理解を深めさせていきたい。

2 各教科の具体的な授業改善

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や言語の特徴、きまりを理解し、活用する力 【知識及び技能】 ・テーマに沿って書きたいことを決め、自分の考えが伝わるように効果的に書く力 【思考力、判断力、表現力等】 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で短時間でも言語に触れる学習を行い、継続的に練習や活用を繰り返す、習慣化していく。 ・書きたいことを決めるときは、イメージマップや表などを活用して書きたいことのイメージを広げたり整理したりする。必要に応じて材料集めを先に行いながら、書きたいことを決めることも有効である。 ・文章や表現の効果的な書き方のポイントを具体例にして示す。情報と関連付けて整理しながら書くようにするなど、見通しをもって書けるように指導の工夫をする。 ・主語・述語、話の順序、指示語、意見と理由・根拠の区別、話の中心、段落のつながり、文章の構造など基本的な事柄を確実に押さえ、論理的に考える指導をする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料の様々な特性を理解して資料の内容を読み取り、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。 【知識・技能】 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、適切に表現する力を養う。【思考力・判断力・表現力等】 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養う。【学びに向かう力・人間性等】 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる内容に応じて適切な資料を提示するとともに、「地図では、位置関係や分布の様子が分かりやすい」といった、資料ごとの特徴を授業の中で押さえる。また、算数科の領域D「データの活用」と関連付けて、社会科の学習内容に関連した資料を算数科で扱ったり、社会科の授業内で、算数科で学習した資料の特色を確認したりして、資料ごとの特徴を理解できるようにする。 ワークシート等で、複数ある資料から適切なものを選んだり、一つの事象について二つの資料を関連付けて読み取ったりする課題に取り組む。 学年間や単元間の内容の関連を意識付けるために、単元や授業の冒頭に、前学年や既習単元の関連内容を確認する時間を適宜設ける。 学習内容が実際に生かされている事例を資料で紹介し、学習が身近な生活につながっていることが実感できるようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質の理解と作図能力向上させる。 【知識及び技能】 既習事項を活用して、自力解決できる能力と論理的思考力を高める。 【思考力、判断力、表現力等】 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物の操作や動作化を多く取り入れて、応用問題の理解を深めさせる。また、図形を構成する要素に着目し構成の仕方に見直しをもたせ、図形の性質を見出させる。その性質を筋道立てて説明する指導を充実させる。高学年では、作図の問題を反復練習して、技能を向上させる。作図後の見直しを徹底させる。 ペアやグループ学習を取り入れ、近くの友達と意見交換を行う場を設け、意見を交わすことにより自分の考えを振り返り、情報の共有化を図る。また、児童が論理的思考力を高めるために、集団検討を通して、「図や表やグラフなど」と「言葉」を結び付けて表現する指導を充実させる。特に言葉、図、式、グラフ等で表現し、説明する活動を取り入れて指導する。論理的思考力を高める授業を展開することで、児童が理解を深め、確かな学力を育成できるようにする。 日常生活に算数を活用できることを実感させ、思考力・判断力を育む活動を多く取り入れる。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然事象に対する基本的な概念や知識、規則性の理解を深める。【知識及び技能】 観察・実験の結果を解釈し、結論を導く力 【思考力・判断力・表現力等】 	<ul style="list-style-type: none"> 導入時に、学習内容に関する体験をさせたり、教具を工夫したりして、意欲的に学習に取り組ませる。 観察・実験の結果から、自分の考えをまとめさせる。観察や実験の結果から導いた自分の考えをノートに書かせ、それを基に話し合いをさせる。タブレット等を用いて意見を共有しやすくするなどして、友達の考えと比較したり、多様な考えを知ったりすることができるようにする。 グループで、考えを深めさせる。実験結果から導かれた考察を、グループで考えあい、言葉、グラフや表等を活用してまとめ、発表し合うことで、情報活用能力を高めるとともに、表現する力を高める。 実験等を振り返る自己評価をし、学習内容の定着や学習態度の向上を図る。また、自然事象と日常生活を関連して振り返っている児童を取り上げ、全体で共有し、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させる。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動や体験を通して、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 【知識及び技能】 体験や活動によって、気付いたことや楽しかったことなどについて多様な方法で表現し、考えを深める資質能力を高める。 【思考力・判断力・表現力等】 	<ul style="list-style-type: none"> 人的・物的資源等を、校内だけでなく地域等の外部の資源を含めて活用するのが望ましいが、コロナ禍においてゲストティーチャーを招いての授業等は難しい。学校探検などで他学年と交流するなど、校内の活動を更に充実させ、児童が多様な体験や活動を設定する。 言葉、絵、動作、劇化などに加えタブレット端末など情報機器を活用した表現方法についても指導を行う。表現活動において、相手に伝えるだけでなく、自らの学習を振り返り、自分自身の成長や次回の学習への意欲につながる学習形態の工夫をする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 自分の表したいことを音楽で表現できるようにする。 【知識及び技能】 表現活動において、自分の思いや意図をもって演奏の良さを見いだしたり音楽を味わって聴いたりする。 【思考力・判断力・表現力等】 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が見通しをもったり活動を振り返ったりしながら学んだことや自分の変容を自覚したりできるよう発問を工夫したり、対話によって自分の考えをまとめたりできる学習形態の工夫をする。また、粘り強く、個に応じたきっかけと支援をする。 児童が自分なりのイメージや感情、生活や文化など関連付けさせ、振り返ったり比較したりしながら、音楽的な見方や考え方を働かせられるようにする。 共通事項を手がかりに知覚から感受へのプロセスを大切にしながら音楽を聴く耳を育てる。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	<ul style="list-style-type: none"> 材料などの形や色やその組み合わせの感じを理解し、用具や表現方法を選んで適切に扱って表現する。 【知識及び技能】 材料や行為などをもとに自分なりのイメージをもち、どのように表すか考える。作品のよさを感じ取り、自分の見方や感じ方を広げる。 【思考力・判断力・表現力等】 つくり出す喜びを味わい、主体的に活動に取り組む。 【学びに向かう力・人間性等】 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な種類の材料を知る体験を通して、形や色などの造形感覚を育てる。 用具を正しく扱えるようになるために、ICTや動画を活用し視覚的な理解を促すとともに、確実に習得できるように繰り返し使用する機会を設ける。 感覚や行為を基にすることに加え、映像や資料、美術作品や友達の作品などを見て自分なりの感じ方を広げイメージをもてるようにする。また、振り返りで「工夫したこと」や「作品についての説明」「友達の作品のよさ」等について考えることで価値付けができるようにする。 手や体全体を十分に働かせて活動し、友達と互いの考えのよさを共有する場を設けて、つくる喜びを感じさせるようにする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住について、日常生活に必要な基礎的な知識と技術を獲得できるようにする。 【知識及び技能】 ・実生活において課題を発見し、解決方法を考えることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】 ・課題の解決に主体的に取り組む姿勢を身に付けることができるようにする。 【学びに向かう力・人間性等】 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に振り返りテストを行う。単元よりさらに細かく、学んだことを振り返る場を設けることで、より着実に知識の定着を図っていく。 ・宿題等で、実際に家で実習する機会を増やし、技能の定着を図っていく。 ・家庭科で学んだことが授業の中だけで終わらないように、他教科との連携を図る。家庭科は実生活で生かしていくことが重要であるため、宿題などの家庭学習も大切にしていく。 ・難易度の高い課題に関して、顕著に学習意欲が低くなる傾向がある。学習意欲をもたせるために、周りの人に自分の意見を認めてもらえる場を多く設け、自己肯定感を大切に授業にしていく。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動遊び・運動の楽しさに触れ、その行い方を知り、基本的な動きや技能を身に付けられるようにする。 【知識及び技能】 ・自分の課題を見付け、その解決のために工夫して取り組むことができるようにする。 【思考力・判断力・表現力等】 ・日常的に運動に親しみ、体を動かすことの楽しさや気持ちよさを感じながら、仲間と仲良く意欲的に運動することができるようにする。 【学びに向かう力・人間性等】 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の運動遊び・運動の中で、様々な体の使い方を体験させ、多様な動きを育てる活動を多く取り入れるよう、授業方法を工夫する。 ・学習カードや発問などを工夫したり、グループを編成して教え合いの学習を取り入れたりする。ICTを活用し、動画等で自分の動きを分析し自分の課題がどこにあるのか気付かせ、スモールステップの手順を示しながら指導を行う。 ・コロナ禍による運動量の低下が顕著なため、休み時間等でもできるだけ外遊びをするように言葉を掛け、運動量とその時間を確保する。体づくりの運動遊びやゲーム性のある運動を通して、コミュニケーションを必要とする運動に取り組ませる。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	<ul style="list-style-type: none"> ・実際のコミュニケーションにおいて、活用できる基礎的な技能を身に付ける。 【知識及び技能】 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて自分の考えや気持ちなどを伝え合う。 【思考力・判断力・表現力等】 ・外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 【学びに向かう力・人間性等】 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のめあてを確認し、明確に児童に提示する。また、振り返りカードでは、めあてと照らし合わせて自分ができたことを書かせるようにする。挨拶や、レビュータイム、スモールトークの時間などを利用し、繰り返し語句を練習できるようにする。 ・必然性のあるコミュニケーションの場を設定する。学習した単語や、文の練習を丁寧に行い、全員がそれを使用しながら、児童間で関わりをもって進めていくアクティビティーを取り入れていく。 ・学習した単語や文を話す、聞くを繰り返し練習をし、体感として慣らしていく。その上で、ゲームやインタビューなど児童が自分で活動しながら活用していく場面を多く取り入れることで、積極性を養っていく。その際児童の実態に合わせ、ペア、グループ、全体と活動体制を選択していく。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深める学習を通して、道徳的価値を実現するための問題状況を把握し、適切な行為を主体的に選択し、実践できるような資質・能力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が道徳的な問題に対して自分事として考えることができるように、導入では問題意識をもって主題に臨むことができるようにする。展開では、教材や人物への「自我関与」ができるように、体験的な活動を取り入れるなど仕掛けや手立てを工夫していく。 ・学年の実態に合わせた教材を選択し、ICTも活用して、自分事として考えを深められる授業改善をする。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な他者と協働する様々な集団活動の意識や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 <p style="text-align: center;">【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意志決定をしたりすることができるようにする。 <p style="text-align: center;">【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。 <p>【学びに向かう力・人間性等】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動やクラブ活動、兄弟学年の取り組みなどを通して、他学年との関わりを増やしていく。 ・学級会を充実させ、話し合いの仕方を身に付け、課題解決を図る。 ・話し合い活動、実践、振り返りのサイクルを徹底することで、新たな課題を発見しやすくする。 ・キャリアパスポートを有効に活用し、目標に向けて自分で意思決定をさせる。 ・当番活動や係活動を行うことで、集団の中の一員ということを認識させる。 ・学級会や学校行事等で実践する機会を設け、多くの課題に直面させ、実際に話し合いや協働活動をすることで、集団の一員として活動することの楽しさや充実感を味わわせる。

	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の枠組みを超えた探求の過程を通して、実社会・実生活における様々な課題解決に活用可能な生きて働く知識・技能。【知識・技能】 ・実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる力。【思考・判断・表現】 ・探求的な学習に主体的・共同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社旗に参画しようとする態度。【学びに向かう力・人間性】 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や教科につながる単元を設定することで、身近なことに問題意識をもてるようにする。 ・1人1台のタブレット端末を活用することで、情報収集・情報処理能力を伸ばす。また、プレゼンテーションソフトを活用して発表する経験を積ませることで、表現力の育成につなげる。 ・「自分には何ができるか」「何がしたいか」を児童が考え、話し合い、実践する形態の授業展開を多く取り入れていくことで、思考力やコミュニケーション能力の育成につなげていく。